

発 言 通 告 書

発言者氏名	井坂 直
発言の会議	令和6年11月27日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

Ⅰ 住環境の向上と地域経済活性化となる住宅リフォーム助成事業について

- (1) 横須賀市では、高齢者住宅リフォーム助成事業を実施して今年度で3年目を迎える。地域経済の活性化という観点から見て、市内事業者に発注することにより、経済対策支援策としての効果、物価高騰の影響を受けている高齢者が住み慣れた家で長く安全に暮らせるための住宅支援につながるなど、様々な事業効果が現れたのではないかと市長のお考えを伺う。
- (2) 令和5年度の平均工事費は約78万円であり、総額1億5,000万円のリフォーム工事費となる。2,000万円の予算額に対して7.5倍もの金額の仕事が市内の中小企業・自営業者に入り、取引額などが金融機関まで循環するという経済効果がある。一方で、個人資産に対して公費を投入することに、公平性が問われることを指摘する意見もある。「住宅は、人々の生活を支える基盤であり、社会の礎」であり、一般的な住宅は社会性を持つ私的資産と言える。個人住宅へのリフォーム助成に一部公費を投入することは、公共の福祉に寄与すると考えるが、市長のお考えを伺う。
- (3) 令和5年度において横須賀市消費生活センターに寄せられた

リフォーム工事に関する苦情件数は235件だった。そのうち169件が60歳以上の高齢者であり、70%以上の割合になる。本市の住宅リフォーム助成制度によって、身近な地元の事業者が施工することで、突然の訪問業者や点検商法による、いわゆるリフォーム詐欺などから高齢者をはじめ市民を守るという効果が発揮されているのではないかと考えるが、市長はいかがお考えか。

- (4) 物価や資材費・人件費の高騰が続く中で、地域経済の主役である市内中小企業・自営業者や高齢者の住まいを共に支えるこの高齢者住宅リフォーム助成事業を継続していく必要性について、市長のお考えを伺う。

2 「トイレについて考える」ことについて

- (1) 横須賀市は、11月19日の世界トイレの日に合わせて、各部局が様々な取組を行っている。学校現場では、トイレに関する学習や学校トイレの美化活動を実施し、子どもたちへの啓発活動も行っている。一方で市立学校に通う児童・生徒としては、「洋式トイレが少なく和式トイレは使いにくいので、我慢している」といった切実な状況があると聞く。教育委員会の方針として、なるべく早くトイレ改修に着手できるような努めていくとのことだが、本市における現状について、市長はどのようにお考えか。
- (2) 文部科学省が行った「公立学校施設のトイレの洋式化の状況」によると、令和5年9月現在で横須賀市の小中学校における洋式便器の設置率は57.8%と公表されている。神奈川県内自治体の平均は76.6%であり、県内で60%を下回っている自治体は7自治体のみである。便器の数が多いほど厳しい数値になるのではないかと推測するが、本市において洋式化が進んでいない要因はどこにあるのか、教育長に伺う。
- (3) 家庭における洋式トイレの普及状況やバリアフリー化、防災機能の強化などの観点からも、トイレの洋式化を引き続き進めていく必要性は大きいのではないかと考える。市長に伺う。
- (4) トイレの改修工事には工期と財政課題、騒音による教育現場への影響等があるが、改修による教育環境の向上効果は大きい

はずだ。文部科学省の示す資料では、過半数の子どもがトイレに行くのを我慢していたところ、改修後は86%の子どもが学校のトイレが新しくなって我慢が減ったと回答しており、子どもたちの健康面が改善された調査結果がある。事業を進める上での課題はあるが、本市における今後の学校施設におけるトイレ改修の実施をどのように進めていく予定なのか、教育長に伺う。

- (5) 少なくとも多感な時期であり、生理を迎える女子が多い中学校の女子トイレの洋式化は、生徒や現場の声を踏まえて優先的に進めてはいかがか。教育長に伺う。
- (6) 公共施設も含めて、駅やデパートなど商業施設のトイレでは、女性トイレに行列ができてしまう実態がある。少なくとも市が管理する公共施設においては、今後新たな施設改修や建て替えの際には、設計段階から利用実態を踏まえた、行列が発生しない程度の数を確保するよう考慮することが求められるのではないかと。市長のお考えを伺う。
- (7) トイレの日について、横須賀市としては「この機会に今一度、トイレについて考えてみませんか」と呼びかけているが、子どもたちが置かれている現状・日常のトイレ事情について私も考えた。トイレについて考えることを呼びかけている立場の市長としてのお考えを、改めて伺う。